

所有者不明土地について

所有者不明土地とは

沖縄では、去った大戦により、沖縄本島とその周辺離島において、土地の所有関係を公証する登記簿や公図類が焼かれ、消失してしまいました。

戦後、米軍政府により土地所有権の認定作業が行なわれましたが、何らかの事情により期限までに所有権申請がなされなかった土地や土地所有権の登記手続きがなされなかった土地などが所有者不明土地となっています。

また、復帰前の土地調査により新たに判明した土地で、所有者からの申し出がなかった土地も所有者不明土地として取り扱われました。

今も沖縄県内には2,644筆、面積で804,967.53㎡(沖縄セルラースタジアム那覇約300分の)の所有者不明土地が存在しており、これらの土地は、「沖縄の復帰に伴う特別措置に関する法律」第62条に基づいて、「当分の間」沖縄県及び所在市町村が管理することになっています。

所有者不明土地実態調査について

平成24年3月に「沖縄の復帰に伴う特別措置に関する法律」が一部改正され、同年4月より国からの委託(全額国庫負担)による所有者不明土地実態調査が開始されました。

この実態調査は、所有者不明土地の現況を把握するための測量

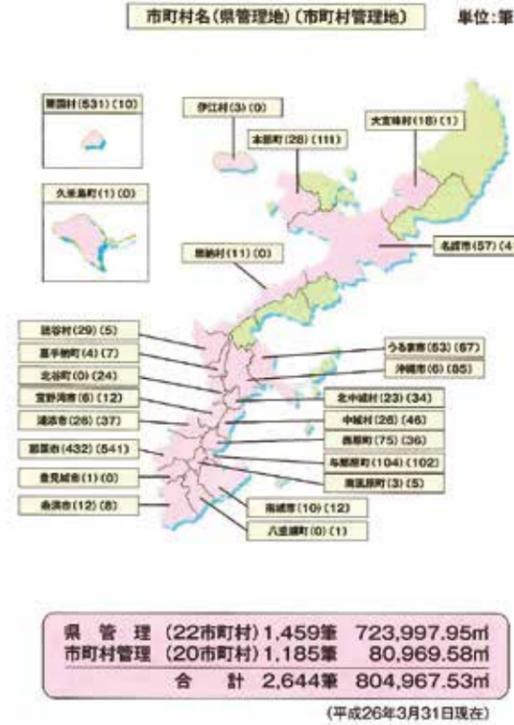
所有者不明土地問題の解決に向けて

と、真の所有者を探すための、隣接地主、地域の古老・地元精通者への意見聴取や、新聞への広告掲載、県外県人会への広報活動などを行うものです。

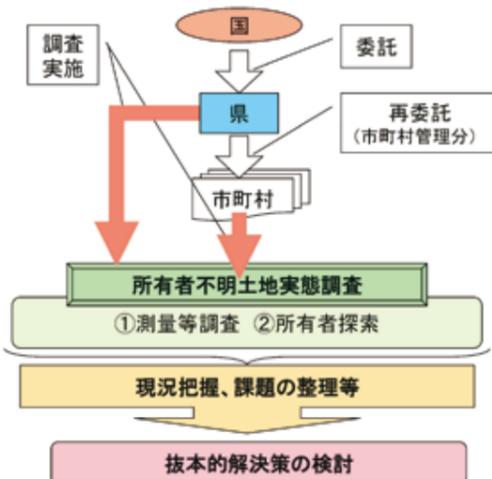
所有者不明土地は、県民の貴重な財産として将来の沖縄のために有効活用を図る必要がありますが、現在の法制度では沖縄県や所在市町村は管理者としての権限が少なく、対応できない問題も出てきています。

所有者不明土地問題については、国が責任を持って解決すべき戦後処理問題の一つであると考えています。そのため、県では市町村と連携し、新たな法律の制定など抜本的解決策を講ずるよう、国に対して求めていきます。

所有者不明土地市町村分布図



所有者不明土地実態調査の流れ



お問い合わせ 県管財課 電話: 098-866-2106 FAX: 098-866-2709



宮古の島々をつなぐ橋 左:伊良部大橋 右上:池間大橋 右下:来間大橋

わんがイチバン!
ムラ自慢
シマ自慢
シリーズ連載 11

宮古島市

MIYAKOJIMA

宮古をひとつの結のこころをつなぐ島の絆

沖縄本島から南西約300kmに位置し、宮古島・池間島・来間島・伊良部島・下地島・大神島の6つの島で構成される宮古島市。サンゴ礁が広がる美しい海に恵まれる一方、大きな山や川がなく、地下水類みの厳しい環境が長年に渡り続いていました。そこで、計画されたのが世界的にも類を見ない規模の地下ダムの建設。現在では3カ所の地下ダムと灌漑設備が整備され、基幹作物であるサトウキビ栽培の安定に加え、マンゴーやゴーヤー、とうがん、かぼちゃ、オクラの拠点産地に次々と認定され、市の農業が大きく発展しました。その上、池間大橋、来間大橋に次いで伊良部大橋が開通したことで、地域の産業基盤の整備や、観光業などの新たな展開にも期待が寄せられています。

エコアイランドを宣言し環境モデル都市としても知られる宮古島市。自然とともに島を愛する心で豊かな未来を育んでいきます。

NIPPON-ICHI 宮古島市これがイチバン

無料通行の橋で長さ日本一



晴れ着に身を包み、渡り初めに参加した地元の方々

2015年1月31日、宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋が開通しました。全長3540m、無料で通行できる橋としては国内最長。架橋の要請から40年、島の人々の悲願を叶える橋は、「青海原と夕日に映えるいらぶの道」をキャッチフレーズに約9年の歳月をかけて建設されました。開通によって島の生活環境の向上はもちろん、観光や農業など、島の産業の活性化が図られます。青い海の上に伸びる橋は、離島の離島として多くの苦勞を重ねてきた島をつなぎ、夢の架け橋として笑顔の往来を見守ります。

マンゴーをたっぷり使い果肉を残した贅沢な味わいが特徴の「マンゴージュレ」。ヨーグルトやケーキのソースにぴったり。
「沖縄県離島フェア2010 優良特産品優秀賞 受賞」
株式会社 南国食楽Zu
☎0980-73-2577



宮古島で大人気のうずまきパンを低温で焼き上げた「うずまきラスク」。サクサクした食感と大きめサイズが楽しい一品。
有限会社 富士製菓パン
☎0980-72-2541



ザックとバター生地にマンゴーがとろける「マンゴーガレット」とふわっと軽くマンゴーがじゅわっと広がる「マンゴーモーヴ」。
有限会社アート・オブ・ティダ
☎0980-73-6343